

スポーツ概論①②		講義	教授 小笠原 正志	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目 教職科目 柔道整復師コースの必修科目 教職科目 救急救命士コースの必修科目 教職科目	科目ナンバリング	11120107 11531110 12120104 12531110 13120103 13531110	

1. 授業のねらい・概要

古来よりスポーツは人生を豊かにさせる「遊び」として生活に溶け込んできた。人生 100 年時代となった現代社会において、スポーツは、長い人生を元気に楽しく過ごす生活ツールとしての比重が増し、その価値が高まっている。私たち一人ひとりにはスポーツを形づくり（スポーツへの社会化）、スポーツは私たち一人ひとりを形づくる（スポーツの社会化）。政治・戦争・経済・宗教・人権問題・ドーピングなど、さまざまな矛盾を抱えた社会のなかでスポーツがこれまで歩んできたプロセスを学ぶことは、これからのスポーツと人間とのより良い関係性を論じる上で欠くことができないであろう。そこで、本講義では、主に近代オリンピックを題材として、スポーツの発展過程を社会の歴史的变化と絡めてスポーツの持つ役割や意味を理解し、スポーツを幅広く学習する。

2. 授業の進め方

スポーツの起源や概念を理解し、スポーツについてより深く学習する。関連のテキスト・資料を用いて、スポーツを広く様々な視点から捉えるとともに、必要に応じて映像を使用し、テーマに沿ったディスカッションなどを交えながら講義を進めていく。また、各回に行う課題の実施により、講義の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス、講義の概要 スポーツの概念	9. 戦前のオリンピックにおける日本の活躍
2. イギリス発祥の近代スポーツの起源とその発展	10. 戦後のオリンピックとオリンピック東京招致
3. フットボールから派生したサッカー・ラグビー	11. 高度経済成長と 1964 東京オリンピック
4. アメリカ発祥の近代スポーツの起源とその発展	12. 近代オリンピックの抱える矛盾 (人権問題・テロリズム・肥大化・ボイコット)
5. 日本古来のスポーツと近代化	13. オリンピックの商業化 (1984 ロス五輪)
6. 日本の近代スポーツの普及	14. 近代オリンピックの発展
7. 古代オリンピック	15. 講義のまとめ
8. オリンピックの復興と近代オリンピック	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでにテキストを活用して復習しておくこと。これらの準備学修には、1 時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回に行う課題については数例を紹介するとともに、期末レポートについては、実施後に解答などを掲示板等に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

本講義では、現代社会におけるスポーツの在り方について学習し、スポーツの意義や文化的な価値を理解するとともに、スポーツを様々な視点から考える力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況（50%）、および期末レポート（50%）により総合的に評価す

る。

8. テキスト・参考文献

小笠原正志：健康生活とスポーツ（SIS, 2024）

参考図書：「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ」（財団法人 日本体育協会）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、企業における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。